

## 市民公開講座 「有明海・八代海を科学する」 および体験実習

研究成果の地域への還元および干潟浅海域に関する環境教育の充実を目的として、一般市民を対象とし公開講座「有明海・八代海を科学する」および体験実習が熊本県水産研究センターとの共催で実施されました。概要は熊本大学ホームページ(<http://engan.kumamoto-u.ac.jp/index.html>)に掲載されています。



パレアでの講義

### 講義

- 10月6日：「還元環境と小型底生生物」  
嶋永元裕（沿岸域センター）
- 10月13日：「肥後ハマグリの資源管理と  
養殖技術の開発」  
逸見泰久（沿岸域センター）
- 10月20日：「有明・八代海再生への技術体系  
——順応的管理の視点から——」  
滝川 清（沿岸域センター）
- 10月27日：「クマモト・オイスターに  
夢を託して…」  
中野平二（熊本県水産研究センター）



養殖ノリのカキ殻糸状体培養（熊本県水産研究センター）



プランクトンの顕微鏡観察  
（合津マリンステーション）

- 11月4日：「音とロボットからわかる有明海的环境」  
秋元和實（沿岸域センター）
- 11月11日：「養殖ノリとアオサ類の遺伝子解析」  
瀧尾 進（沿岸域センター）

### 体験実習

- 10月19日（火） 熊本県水産研究センター・熊本大学合津マリンステーションでの見学，実習船での調査およびプランクトンの顕微鏡観察

## 「なぎさ線の回復」が 有明海再生に最も効果的!!



熊本港「北なぎさ線」：多数のアサリ貝やタイラギ等の着床・生残を確認

平成17年度から5カ年間の研究で、昨年度終了した文部科学省科学技術振興調整費による有明海再生のプロジェクト、『有明海生物生息環境の俯瞰型再生と実証実験』の研究成果がまとめられました。その中で、熊本大学滝川教授が提唱している「なぎさ線の回復」が貧酸素水塊の制御や生物の増加などに最も効果的であることが分かりました。この有明海再生プロジェクトでは、再生技術として他に「覆砂」「海底耕耘」「<sup>いじょうてい</sup>囲繞堤」「カキ礁の復元」などの現地試験を実施し、得られたデータを基に改善効果をコンピューターで解析しました。その結果、なぎさ線を有明海の湾奥部に復活させるだけで貧酸素水塊を約半分に減少させ、また、サルボウなどの2枚貝類を最も増やせることが分かりました。

今後の有明海再生技術の事業化に向けて、大いに期待されています。

